

黒土



孝司

Koji
Kurotsuchi

継承から更なる発展へ 町政担うリーダー誕生

INTERVIEW

志半ばで辞職した嶋野勝前町長の後任として、新たに町政を担う黒土孝司町長。町の未来を託された、今の思いを伺いました。



●PROFILE
黒土 孝司 (くろつち こうじ)
福智町赤池出身、65歳。田川東高校、九州理工専門学校卒業後、旧赤池町役場に入庁。合併後は学校教育課長などを経て、平成27年に副町長に就任。療養のため辞職した嶋野勝前町長から後継指名を受けて出馬し、今回初当選。

初当選を迎えて

今回の選挙で福智町の隅々まで回り、多くの声を聞いたことで、町づくりのために何が必要なのか、その課題を見つけることができました。それと同時に町が持つ魅力・可能性も再認識でき、さらに魅力ある町づくりを進めたいと決意を新たにしました。

前町政を振り返って

私は副町長として、町長に一番近い位置で町政を下支えしてきました。嶋野前町長が着実に整えてきた町づくりの基盤。しかし社会福祉・医療・教育など課題は山積しています。前町政で実現できなかった柑橋の里づくりや病児・病後児保育については、継続して早期実現に向けた具体策を整えていきます。嶋野町政が残したものをベースとして引き継ぎつつ、町を活気づける新たな構想を打ち出していきたいと思えます。

決断力、実行力、スピード感を持って 町政を次のステージへ

町のこれからについて

合併時からこの町の人口は減少の一途をたどっています。定住促進などの政策が実を結び減少は緩やかになってきたものの、強い危機感を感じています。

まず一番に取り組んでいきたいことは交流人口の増加。目指すのは「稼げる町、足を止めてもらえる町づくり」です。町の魅力を伝える環境を整備することで外から人を呼び込み、将来的には定住に



↑6月18日、職員の手の中初登庁。町政を担う決意を伝え、新町長として第一歩を踏み出しました。

と考えています。その中でも一番はやはり教育です。子どもたちそのものがこの町の未来。来年度には金田小中義務教育学校も開校します。基礎学力の向上を最重要課題として、行政と教育現場の対話と連携を重視し、子どもたちの生き抜く力を培う教育を進めていきます。

目指す町政について

今回自分のキャッチフレーズとして「スピード感」を掲げました。私も役場職員時代に言われましたが、どうしても「お役所仕事」と批判を受けます。求められている今への対応こそが奉仕であり、行政は最大の奉仕者であることは言うまでもありません。町民の皆さまが相談にいられたとき、目の前の課題を先送りせず迅速に対応する。その覚悟を職員と共有し、取り組みたいと思えます。また、私自身が決断力と実行力を持って町政の先頭に立ちます。役場職員としての現場での行政経験、副町長として培った町政感覚、国政や県政、他市町村とのつながりを駆使し、公平公正な町政運営を進めてまいります。

町づくりにおいては、町民参加型の体制を構築したいと考えています。産学官民各分野の専門家によるプロジェクトチームを結成し、応急処置ではなく長期的な町づくりのために、みなさんの意見を広くお伺いしたいと思います。これまでの改革を止めず、実を結ぶためにはこれからの勝負の時。手と手を取り合い、「住みたいと思える町、住んで良かった町」をとともに築いていきたいと思います。